

2026技術系公務員講座 理系M0・M1対象短期パック シラバス



<ご注意>

※このシラバスは講座開講準備段階の2026年9月に各講師が作成したものです。
※開講後講義予定が変更になることがありますので、ご了承の上ご覧ください。

2026技術系公務員講座

国家公務員総合職合格コース 理系M0・M1対象短期パック

目次

ページ	項目	講師
2	使用テキスト一覧	—
3	教養基礎	近藤
4	数的処理・資料解釈	林
5	文章理解	近藤
6	時事教養	近藤
7	工学の基礎	丸山
8	工学区分1upゼミ	近藤
9	国家総合職試験演習	丸山
10	政策立案講義	近藤

専門科目WEB無料視聴用

ページ	項目	講師
11	使用テキスト一覧	-
12	土木	丸山
13	土木応用	丸山・近藤
14	建築	近藤
15	建築応用	近藤
16	機械	丸山
17	機械応用	丸山
18	電気・電子	丸山
19	電気・電子応用	丸山
20	化学	近藤
21	化学応用（工学）	近藤

**2026年度 国家公務員総合職合格コース 理系M0・M1対象短期パック
使用テキスト一覧**

科目名	テキスト/レジュメ	出版社	税込価格	備考
教養基礎	レジュメ対応	-	-	
数的処理・資料解釈	レジュメ対応	-	-	
文章理解	レジュメ対応	-	-	
時事教養	・公務員試験 速攻の時事 令和9年度年度試験完全対応 ・レジュメ	実務教育出版	¥1,320	2027年2月発売予定 (価格は予定)
工学の基礎	レジュメ対応	-	-	
工学区分1upゼミ	レジュメ対応	-	-	
国家総合職試験演習	レジュメ対応	-	-	
政策立案講義	レジュメ対応	-	-	

※テキスト価格は予定です

Syllabus

科目	教養基礎
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	2コマ
受講対象	理系M0・M1対象短期パック
必要な知識	特になし
受講生の到達目標	国家総合職試験を中心に、技術系公務員及び技術系公務員試験の概要とその対策、当「院生コース」における学習方針等について理解し、今後の実践に繋がれること。

<講義内容>

春期に行われた技術系公務員に関する全般ガイダンス及び今年度の「院生コース」に関するガイダンスを振り返りつつ、当「院生コース」の特性と、そこから導出される、“今後なすべきこと”をご理解頂くために設けた特別ガイダンスとなります。講座での学習内容と、それを踏まえた自宅学習の進め方についても、詳細をお話しさせて頂く予定です。特に「教養科目」、とりわけ「知識系」諸科目の学習指針及び具体策についてお話しさせて頂き、加えて、所謂「個別専門科目」の学習法についても、受講生の皆さんの専攻分野等を踏まえつつ、その指針及び具体策につきガイダンスを実施致します。

<講義予定>

1・2	コマ	「院生コース」全般ガイダンスと今後の学習方針、自学法等について
-----	----	---------------------------------

Syllabus

科目	数的処理・資料解釈
担当講師	林 信廣
回数(コマ数)	20コマ
受講対象	理系M0・M1対象短期パック
必要な知識	小学校の算数および中学校までの数学に関する知識
受講生の到達目標	問題を解くために必要な知識および技術の修得を目指します。

<講義内容>

国家公務員の院卒生向け試験では、教養試験のうち数的処理の点数が合否に大きく影響します。しかし、研究活動のため、十分な学習時間が確保できない受験者の方が多いのも事実です。そこで、本講座を通して、数的処理問題の基本的な解法と応用力を身に着けることを目指します。

<講義予定>

1・2	コマ	数的推理（１）
3・4	コマ	数的推理（２）
5・6	コマ	数的推理（３）
7・8	コマ	数的推理（４）
9・10	コマ	判断推理（１）
11・12	コマ	判断推理（２）
13・14	コマ	判断推理（３）・図形把握（１）
15・16	コマ	図形把握（２）
17・18	コマ	図形把握（３）
19・20	コマ	資料解釈

Syllabus

科目	文章理解
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	8コマ
受講対象	理系M0・M1対象短期バック
必要な知識	特になし(高等学校卒業レベルの英語の知識があれば望ましい)
受講生の到達目標	国家総合職レベルの文章理解(現代文・英文)につき、最終段階において合格水準に到達すること

<講義内容>

「文章理解」は、独学では最も学習が進めにくい科目の一つであるといえます。本講義では、自宅学習において適宜問題演習を進めて頂けるようになることを前提に、当科目の概要と主要な“攻略法”の基本イメージを掴んで頂き、その後、「現代文」及び「英文」という両分野の特性の共通点・相違点も踏まえた、個別の文章内容群ごとの効果的な解法についてご紹介致します。併せて、特に総合職において出題数が多い英文攻略のための、語彙面・文法面等も含めた学習法等についてもお話しさせて頂く予定です。

<講義予定>

1・2	コマ	「文章理解」とは：その概要と攻略法 ～一般原則と個別解法について～
3・4・5	コマ	「現代文」攻略法の諸相 ～出題分野及び文章内容群ごとの特性等も踏まえて～
6・7・8	コマ	「現代文」攻略法の諸相(続) ～特に文章内容群及び語彙面での特性に注目して～ 「英文」攻略法の諸相/「文章理解」総合予備日(実問演習等含む)

Syllabus

科目	時事教養
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	10コマ
受講対象	理系M0・M1対象短期バック
必要な知識	公務員試験一般知識レベルの社会科学及び自然科学の基礎が押さえられていることが望ましい。
受講生の到達目標	各種公務員試験における時事択一問題に対応でき、併せて小論文等の人物試験においてもその知識が応用できること。

<講義内容>

あらゆる公務員試験の択一式試験において、時事問題は必須の出題事項となっており、しかも年々重視される傾向となっています。また、小論文試験や集団討論等の人物試験においても、時事事項を踏まえた論理展開等を行うことができれば高評価を得やすくなります。一方で、時事事項は情報量が多く、また公務員試験特有の出題傾向がはっきりと存在するため、闇雲に学習を行っても効率的とは云えません。そういった特性を踏まえ、公務員試験の出題傾向に合わせた時事事項の学習を短期間に集中的に行って頂けるような講義展開を目指します。

<講義予定>

1・2・3	コマ	ガイダンス：公務員試験における「時事」とは／ “文科省マター”：科学技術・教育 等
4・5・6	コマ	“厚労省マター”：社会保障・雇用労働・公衆衛生 等／ “治安系マター”：司法・警察関連
7・8・9・10	コマ	政治事情等：国内政治(新法関連含む)・国際政治の動向など 経済事情等：国内経済(財政・金融含む)・国際経済の動向など

Syllabus

科目	工学の基礎
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	16コマ
受講対象	理系M0・M1対象短期パック
必要な知識	数学・物理の高校範囲の基礎的な知識 (講義では大学教養範囲のものも一部取り扱います)
受講生の到達目標	国家総合職の工学の基礎で、正答率50%以上の問題を確実に正解し、正答率35%以上の問題の一部が正解できる実力を付ける

<講義内容>

国家総合職の過去問の演習と、発展的な知識についての講義を行っていきます。問題は、確実に正解したいものから、やや難しいものまで取り扱う予定ですが、本試験で解けなくてもよい問題については省いていきます。演習中心になりますが、実際に自分で問題を解きながら講義に取り組んで下さい。なお、本講座は、総合職向けということで、最初から過去問を使用した講義になっています。より基礎から取り組みたいという人は『技術系 新スーパー過去問ゼミ 工学に関する基礎』（実務教育出版）で予習（自習）をしてもよいでしょう（講義では本書に掲載した総合職の問題もレジュメで使用する予定です。また、このテキストは講義では不要ですが、一部問題の解答が必要な方はご購入を検討してください）。

<講義予定>

1・2・3	コマ	フローチャート，行列の問題
4・5・6	コマ	微積分の問題，確率の問題（その1）
7・8・9	コマ	確率の問題（その2），力学の問題（その1）
10・11・12	コマ	力学の問題（その2），熱力学の問題，波動の問題（その1）
13・14・15	コマ	波動の問題（その2），電磁気学の問題（その1）
16	コマ	電磁気学の問題（その2）

Syllabus

科目	工学区分1 u pゼミ
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	14コマ
受講対象	総合職試験(工学区分)を目指す人
必要な知識	国家一般職・地方上級及び国家総合職対策講座終了時レベルの知識
受講生の到達目標	国家総合職試験における実践的得点力のさらなる向上を図り、最終合格の可能性をより高めること。

<講義内容>

国家総合職試験「工学」区分には、いわば“汎用科目”ともいうべき、短期間の学習で得点源としやすい、いくつかの選択科目が存在します。例えば、①「技術論」、②「工学基礎実験」「情報基礎」の各科目全般、さらには③「計測工学・制御工学」及び「航空力学(「機械力学」の1問として出題されます)」や「熱力学・熱機関」「電子工学」「環境工学(土木系)」といった科目の一部の問題がそれにあたると云ってよいと考えられます。本講義では、主として上記①を中心として、事項解説及び過去問演習及びその解説等を通じ、国家総合職試験におけるさらなる実践的得点力の向上を目指します。なお「技術論」とは、国家総合職試験のみに設けられる選択科目であり、その内容は；技術の歴史、技術と社会との関係(安全性・利便性の向上や、その一方で発生する環境問題や大規模事故等)、科学・技術政策の動向、技術者倫理などとなっています。JABEE認定の正課講義等で学習されている「技術者倫理」等との関連も深く、また国家一般職・地方上級等でも課される「技術系小論文」の対策も兼ねることができ、非常にお勧めの科目です。

<講義予定>

1・2・3	コマ	全般ガイダンス／技術論Ⅰ：技術史Ⅰ
4・5・6	コマ	技術論Ⅱ：技術史Ⅱ
7・8・9	コマ	技術論Ⅲ：技術史Ⅲ
10・11	コマ	技術論Ⅳ：科学技術政策・科学技術動向等
12・13・14	コマ	技術論Ⅴ：技術者倫理(科学技術倫理全般及び技術者倫理等)

Syllabus

科目	国家総合職試験演習
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	18コマ
受講対象	理系M0・M1対象短期パック
必要な知識	工学の基礎が解ける程度の知識＋一部科目は科目の専門知識
受講生の到達目標	国家総合職試験で合格点を余裕を持って取れるための実力を付ける

<講義内容>

選択科目の中には、専門知識がなくても容易に解くことができるものもあります。これを中心に、合格点がとれるように各科目について見ていきます。該当科目の専門知識がなくても、講義を受けてみればその科目について選択の余地が出てくると思われますので、特に、各科目の先頭の部分（科目の紹介をします）は、自分の専門にかかわらず受講してみてください

<講義予定>

1・2・3	コマ	熱力学
4・5・6	コマ	熱力学，機械力学
7・8	コマ	機械力学，電子工学
9・10・11	コマ	電子工学
12・13・14	コマ	制御工学，流体力学（水理学）
15・16・17	コマ	流体力学（水理学），構造力学・材料力学
18	コマ	構造力学・材料力学

Syllabus

科目	政策立案講義
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	12コマ
必要な知識	特になし(中学校「公民」及び高等学校「現代社会」「政治・経済」もしくは「倫理」のうち1科目以上の基礎知識があればより望ましい)
受講生の到達目標	最終段階において、各種公務員試験における「小論文」及び「面接」「集団討論」、特に国家総合職試験「政策論文」及び「政策課題討議」、さらには「官庁訪問」等において高評価を獲得しうるような政策的思考力の基礎を涵養する。

<講義内容>

「政策」—「よくコトバは耳にするけど、何かつかみどころがないよね…」「何だかよくわからないうちにどこかで決められて、押し付けられてる感じってあるよね…」etc.「政策」という存在は、どこか、日常生活からかけ離れた、それでいてしっかりと取り囲まれている何だか奇妙なモノ…という印象を持たれがちです。しかし例えば、食品や水、建築物などの「安全性」をいちいち確認せずとも、多くの場合“安全”にそれらが使えるのも、教育機関や道路が利用できるのも、実のところすべて「政策」の産物なのです。本講義では、将来何らかの形で「政策」の直接の担い手となる「公務員」を目指す皆さんに、その「政策」に関する基礎的な見方・考え方、分析手法や立案手法等をご紹介します、公務員試験においていわば「政策的思考力」ひいては「政策立案力」を問われるような、上記の「到達目標」に書かせて頂いた各種の試験(その典型が国家総合職「政策論文」試験です)を突破し、かつ特にそのレベルが高度なものとなる国家総合職「官庁訪問」等においても高評価を獲得して頂くための基礎力の涵養を目指す講義展開を予定しています。

<講義予定>

1・2・3	コマ	「行政」とは何か：その存在理由、その構造と機能、行政内部及び民間部門等の他セクタとの役割分担や相互関係について 等
4・5・6	コマ	「政策」とは何かⅠ(総論篇)：その存在理由、その「担い手」と「手段」の諸相、いわゆる「政策プロセス」の在り方について 等
7・8・9	コマ	「政策」とは何かⅡ(各論篇)：近年の我が国における代表的な「政策」に係るケーススタディとその分析及び“次善の策”の検討 等
10・11	コマ	「政策論文」対策Ⅰ：その傾向と対策、重要過去問研究(添付資料の読解を含む)、試験委員研究、「予想問題」配布 等(「政策課題討議」の研究も含む)
12	コマ	「政策論文」対策Ⅱ：「予想問題」フォローアップ、その他の重要出題予想テーマの検討 等

2025年度技術系公務員講座 使用テキスト一覧

科目名	テキスト名	出版社	税込価格	備考
土木	公務員講座テキスト『土木』	資格★合格クリアール	¥2,500	※「土木応用」と同じテキスト
	技術系新スーパー過去問ゼミ 土木	実務教育出版	¥3,300	※「土木応用」と同じテキスト
建築	建築職公務員試験 専門問題と解答 構造・材料ほか編(第4版)	大学教育出版	¥3,300	
	建築職公務員試験 専門問題と解答 計画・環境ほか編(第6版)	大学教育出版	¥2,970	
	二級建築士 はじめの一步：学科対策テキスト	学芸出版社	¥2,420	
機械	レジュメ対応	-	-	※「物理系」も同じ
電気・電子 数学・物理対象	技術系新スーパー過去問ゼミ 電気・電子・デジタル	実務教育出版	¥3,300	
化学	「新スーパー過去問ゼミ 化学」(第1版)	実務教育出版	¥3,300	
土木応用	公務員講座テキスト『土木』	資格★合格クリアール	¥2,500	※「土木」と同じテキスト
	技術系新スーパー過去問ゼミ 土木	実務教育出版	¥3,300	※「土木」と同じテキスト
建築応用	レジュメ対応	-	-	
機械応用	レジュメ対応	-	-	
電気・電子応用	レジュメ対応	-	-	※「電気・電子」テキストも使用
化学応用	レジュメ対応	-	-	

※テキスト価格は予定です。実際の店頭の価格と多少異なる場合もあります。

Syllabus

科目	土木
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	46コマ ※うち12コマ分は機械と共通
受講対象	土木職公務員試験受験生
必要な知識	特になし（一部工学の基礎の数学，力学の知識を使用）
受講生の到達目標	地方上級の土木職の出題に6割程度得点できるようにすること。 全科目について総合職の基本的な実力をつけること

<講義内容>

地方上級の出題内容をふまえて，土木専門の全範囲について講義をしていきます。特に，試験時間を意識した特殊な解き方を紹介する場合があります。国家総合職の場合も，この講義が基本となります。

<講義予定>

1・2・3	コマ	構造力学1
4・5・6	コマ	構造力学2
7・8・9	コマ	構造力学3
10・11・12	コマ	構造力学4
13・14・15	コマ	土質力学1
16・17・18	コマ	土質力学2
19・20・21	コマ	土質力学3
22・23・24	コマ	水理学1
25・26・27	コマ	水理学2
28・29・30	コマ	水理学3
31・32・33	コマ	水理学4，測量学1
34・35・36	コマ	測量学2，コンクリート1
37・38・39	コマ	コンクリート2，都市計画1
40・41・42	コマ	都市計画2，河川工学
43・44・45	コマ	海岸工学，衛生工学
46	コマ	衛生工学

Syllabus

科目	土木応用
担当講師	丸山 大介 / 近藤 秀臣
回数(コマ数)	18コマ
受講対象	土木系科目で総合職試験を目指す人
必要な知識	丸山講師：土木講義に出席していること、又は同等の知識 近藤講師：国家一般職・地方上級レベルの「土木」分野に係る基礎知識
受講生の到達目標	丸山講師：国家総合職の問題が解けるようにすること 近藤講師：最終段階にて国家総合職レベルの合格ラインに達すること。

<講義内容>

丸山講師：土木系の国家総合職の過去問演習講義です。扱う科目は、構造力学・材料力学・建築構造力学、水理学・土質力学・流体力学、環境衛生工学です。第4回では第1-3回までの内容を受けて科目を決めます（過去には、熱力学を扱ったこともあります）。

近藤講師：選択科目「建築史・都市計画」等を中心とした計画系科目につき、過去問演習等を主軸としつつ、建築史及び都市政策・住宅政策関連、都市計画史等にも配視した効率的な知識補充を行い、万全の態勢で総合職試験に臨んで頂けますような講座展開を目指して参ります。

<講義予定>

1・2・3	コマ	【丸山講師】構造力学系演習
4・5・6	コマ	【丸山講師】水理学系演習
7・8・9	コマ	【丸山講師】環境・衛生工学
10・11・12	コマ	【丸山講師】熱力学を予定
13・14・15	コマ	【近藤講師】国家総合職過去問演習：計画系科目関連Ⅰ
16・17・18	コマ	【近藤講師】国家総合職過去問演習：計画系科目関連Ⅱ

Syllabus

科目	建築
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	36コマ
受講対象	建築職公務員試験受験生
必要な知識	特になし
受講生の到達目標	最終段階にて国家一般職及び地方上級レベルの合格ラインに達すること。

<講義内容>		
国家一般職及び地方上級試験における建築系区分の各科目全般についての基本事項に関する講義を中心に、各種公務員試験の合格ラインに達する実力を涵養します。特に、分量的に多くなる知識分野の効率的な学習法や、然るべき対策によって得点アップが期待できる構造力学等の計算問題対策、独学では難しい部分も多い設計問題対策についても、適切に目配りを行って参ります。		
<講義予定>		
1・2・3	コマ	建築職公務員全般ガイダンス／建築史・都市計画史Ⅰ
4・5・6	コマ	建築史・都市計画史Ⅱ
7・8・9	コマ	都市計画Ⅰ
10・11・12	コマ	都市計画Ⅱ
13・14・15	コマ	都市計画Ⅲ、建築計画・建築法規Ⅰ
16・17・18	コマ	建築計画・建築法規Ⅱ
19・20・21	コマ	建築計画・建築法規Ⅲ、建築設備・環境工学Ⅰ
22・23・24	コマ	建築設備・環境工学Ⅱ
25・26・27	コマ	建築設備・環境工学Ⅲ
28・29・30	コマ	建築設備・環境工学Ⅱ、建築材料・建築施工Ⅰ
31・32・33	コマ	一般構造・構造力学Ⅰ
34・35・36	コマ	一般構造・構造力学Ⅱ

Syllabus

科目	建築応用
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	12コマ
受講対象	建築系科目で総合職試験を目指す人
必要な知識	国家一般職・地方上級レベルの「建築(学)」に係る基礎知識
受講生の到達目標	最終段階にて国家総合職レベルの合格ラインに達すること。

<講義内容>

国家総合職試験における建築系区分の主要選択科目につき、過去問演習及びその解説等を通して、実践力の涵養を目指します。概ね前半は選択科目中で短期間の実力向上が可能な建築史・都市計画・建築法規・建築計画等を中心とし、後半は環境工学・建築設備・材料及び施工・構造力学等を中心に実践力の向上を図ります。

<講義予定>

1・2・3	コマ	国家総合職過去問演習Ⅰ
4・5・6	コマ	国家総合職過去問演習Ⅱ
7・8・9	コマ	国家総合職過去問演習Ⅲ
10・11・12	コマ	国家総合職過去問演習Ⅳ

Syllabus

科目	機械
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	32コマ ※うち12コマ分は土木と共通
受講対象	機械職公務員試験受験生
必要な知識	工学の基礎の数学・物理
受講生の到達目標	国家一般職，地方上級，国家総合職の基礎レベル

<講義内容>

土木系との共通講義は講義と演習，機械職のみの講義では，演習が中心となります。ここでは，過去問を見ながら，公務員試験の頻出，重要分野の講義と過去問を使った演習をしていきます。

<講義予定>

1・2・3	コマ	材料力学1(土木と共通)
4・5・6	コマ	材料力学2（土木と共通）
7・8・9	コマ	材料力学3
10・11・12	コマ	機械力学1
13・14・15	コマ	機械力学2
16・17・18	コマ	流体力学1(土木と共通)
19・20・21	コマ	流体力学2(土木と共通)
22・23・24	コマ	流体力学3
25・26・27	コマ	熱力学1
28・29・30	コマ	熱力学2
31・32	コマ	制御工学

Syllabus

科目	機械応用
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	4コマ
受講対象	機械系科目で総合職試験を目指す人
必要な知識	機械の講義を受講していること
受講生の到達目標	国家総合職合格レベル

<講義内容>

国家総合職の演習をしていきます。4力学の中から近年の国家総合職の問題の演習を行う予定です。主に機械系の講義で扱わなかった特殊な分野が中心となります（なお、場合によっては、制御なども扱います）

<講義予定>

1・2	コマ	機械系総合演習
3・4	コマ	機械系総合演習

Syllabus

科目	電気・電子
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	16コマ
受講対象	電気職公務員試験受験生
必要な知識	工学の基礎の数学・物理
受講生の到達目標	一般職の合格レベル, 総合職の標準問題が解けるレベル

<講義内容>

電気系の科目を一般職の過去問を中心に見ていきます。ただし、一部科目は総合職についても見ていきます。問題演習を中心に多くの問題を扱っていきます。スー過去の問題, および近年の過去問を扱っていきます。

<講義予定>

1・2・3	コマ	電気回路
4・5・6	コマ	四端子回路, 電子回路1
7・8・9	コマ	電子回路2, 過渡応答回路
10・11・12	コマ	電磁気学
13・14・15	コマ	電子工学, 制御工学
16	コマ	制御工学

Syllabus

科目	電気・電子応用
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	12コマ
受講対象	電気系科目で総合職試験を目指す人
必要な知識	国家一般職レベルの実力
受講生の到達目標	国家総合職の択一合格レベル

<講義内容>

電気系の科目を中心に、主に総合職1次の対策をしていきます（科目割は昨年度の実績です）。過去問の演習が中心となります。ここまでの講義で扱わなかったことも、総合職の出題傾向を中心に扱っていきます。

<講義予定>

1・2・3	コマ	電子工学・制御
4・5・6	コマ	制御・電気工学
7・8・9	コマ	電気工学
10・11・12	コマ	電磁気学

Syllabus

科目	化学
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	36コマ
受講対象	化学職公務員試験受験生
必要な知識	高等学校理系クラス修了時レベルの化学の基礎知識があれば望ましい。
受講生の到達目標	最終段階にて国家一般職及び地方上級レベルの合格ラインに達すること。

<講義内容>

国家一般職及び地方上級試験における化学系区分の各科目全般についての基本事項に関する講義を中心に、各種公務員試験の合格ラインに達する実力を涵養します。特に、分量的に多くなる知識分野の効率的な学習法や、然るべき対策によって得点アップが期待できる計算問題対策、一見とっつきにくそうに見えますが実は得点源としやすい(そして、地方上級等においては出題数も多い)分野である化学工学等について、特に重点的に取り扱って参ります。

<講義予定>

1・2・3	コマ	全般ガイダンス／化学工学Ⅰ
4・5・6	コマ	化学工学Ⅱ
7・8・9	コマ	化学工学Ⅲ／物理化学Ⅰ
10・11・12	コマ	物理化学Ⅱ
13・14・15	コマ	物理化学Ⅲ／分析化学
16・17・18	コマ	無機化学Ⅰ
19・20・21	コマ	無機化学Ⅱ(無機工業化学含む)
22・23・24	コマ	無機化学Ⅱ(無機工業化学含む)・有機化学Ⅰ
25・26・27	コマ	有機化学Ⅱ
28・29・30	コマ	有機化学Ⅲ
31・32・33	コマ	有機化学Ⅳ(高分子化学・有機工業化学含む)
34・35・36	コマ	生物化学

Syllabus

科目	化学応用
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	20コマ
受講対象	化学系科目（化学工学/化生薬）で総合職試験を目指す人
必要な知識	国家一般職・地方上級専門試験レベルの「化学」及び教養試験レベルの「生物」等の基礎知識
受講生の到達目標	最終段階にて国家総合職レベルの合格ラインに達すること。

<講義内容>

国家一般職・地方上級レベルの一般的な「化学」分野の学習を踏まえ、国家総合職「工学」(及び「化学・生物・薬学」)区分及び旧国家Ⅰ種「理工Ⅰ」(及び「理工Ⅳ」)区分の化学系科目を中心に、過去問演習等を軸に最終合格可能な実力の涵養を目指します。なお、選択科目は多岐にわたるため、受講生の皆さんの選択予定科目を中心に適宜講義内容をアレンジしてゆく予定です。

<講義予定>

1・2・3	コマ	国家総合職「化学系」総括過去問演習・解説Ⅰ
4・5・6	コマ	国家総合職「化学系」総括過去問演習・解説Ⅱ
7・8・9	コマ	国家総合職「化学系」総括過去問演習・解説Ⅲ
10・11・12	コマ	化学系過去問演習・解説
13・14・15	コマ	薬学系・生物系過去問演習・解説Ⅰ
16・17・18	コマ	薬学系・生物系過去問演習・解説Ⅱ
19・20	コマ	薬学系・生物系過去問演習・解説Ⅲ